

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	看護基礎教育におけるシミュレーション教育のデブリーフィングの検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	鈴木 郁美
	研究協力者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	前野 真由美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長谷部 美紀
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	植田 春美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中村 卓樹
	発 表 者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	鈴木 郁美

講演題目
看護基礎教育におけるシミュレーション教育のデブリーフィングモデルと教育効果の検討
研究の目的、成果及び今後の展望
【背景・目的】 看護教育モデルコア・カリキュラムでは、臨床判断能力の育成や安全な看護実践のための技術習得が重視されており、従来の講義中心の教育による臨床現場との乖離が指摘されてきた。そのため、学生が主体的に学び、臨床に近い状況で判断・行動できる能力を育成する教育方法として、シミュレーション教育の導入が進んでいる。 シミュレーション教育は、実際の患者を危険にさらすことなく何度も繰り返し学習できる点に加え、心理的安全性の確保、自己効力感の向上など、多様な教育効果が報告されている（野島, 2023）。また、シミュレーション教育では、学習者が経験を振り返り、意味づけを深める過程、つまり、デブリーフィングが学習効果を高めることから、デブリーフィングが最も重要であるとされている。 そこで、本研究では、看護基礎教育における既存のデブリーフィングモデルの特徴と教育効果を検討することを目的とした。 【方法】 看護基礎教育におけるシミュレーション教育のデブリーフィングモデルと教育効果に関する文献を対象に、文献検討を行った。対象文献は、検索データベースは医学中央雑誌 Web 版、PubMed を用いた。検索語は、日本語では「シミュレーション」「看護基礎教育」「デブリーフィング」を組み合わせ、英語では “simulation”, “nursing education”, “debriefing” を組み合わせて検索した。 【成果および今後の展望】 看護基礎教育におけるシミュレーション教育のデブリーフィングに関する文献を分析した結果、国内で確認された主なデブリーフィングモデルは、Plus-Delta モデル、GAS モデル、またそれらを組み合わせたモデルであった。海外文献では DML（Debriefing for Meaningful Learning）PML、INACSL 基準に基づく構造化デブリーフィングなど、より多様なモデルが報告されていた。デブリーフィングによる教育効果としては、臨床判断能力の向上、批判的思考の強化、反省的思考の深まり、スキル・知識・態度の改善が報告されていた。デブリーファの熟練度が学習効果に影響することも示されていた。今後、本学のシミュレーション教育においては、適切なデブリーフィングモデルの導入と学習効果の検証、教員のファシリテーションスキルの向上、教員間の統一した指導体制が課題である。